

あるまじい

酪農学園関東同窓会会報

第17号 2011年1月

酪農学園関東同窓会
会報編集委員会

東京都千代田区有楽町 2-10-1
東京交通会館 11階 〒100-0006
酪農学園東京事務所内

酪農学園改革の進捗について

学校法人 酪農学園
常務理事 福山 二仁(獣医3期)



2009年10月から酪農学園で仕事する機会を与えていただきました。

麻田理事長より、「学園にあるシーズ・製品をブランド化し事業化を図るように」これが私に与えられましたミッ

ションであり、事業部準備室の任務をいただきました。

ピーター・F・ドラッカー著書「イノベーションと企業家精神」第14章「公的機関の企業家精神」
「公的サービス機関(大学)は、企業とまったく同じように、起業家でなければならない、むしろ企業以上に起業家であることが必要かもしれない」、
「公的サービス機関がイノベーションを推進することは、もっとも官僚的な企業よりも、はるかに難しい」、それは、「現に存在しているものが、障害をいっそう大きくするからである」。

その解説として、第一に「公的サービス機関は支出をもとにした予算を基礎とする組織であり、売上の中から代価、が支払われる組織ではない」、
予算規模の縮小に繋がる組織活動の縮小、削減には大きな抵抗が生ずる。第二に「公的サービス機関は、数多くの関係者に依存する」、企業の場合は、消費者満足を優先することにより関係者の満足を導く事となるが、公的サービス機関は核となるものがなく、新しいことの導入は関係者の論議を呼ぶが、すべての関係者の満足を得ることは難しい。第三に「公的サービス機関は自分たちの任務を道徳的に絶対と見なし、経済的なものではなく、費用対効果になじまない」とみる」、公的サービス機関にイ

ノベーションを推進する場合、それはその機関の存在理由・理念に対する攻撃として反撃を受ける。

このように、公的サービス機関のイノベーションは、既存機関からは生まれ難い。

このような大学を取巻く一般的な背景を踏まえながら、酪農学園改革のフレームをベースに「自立分散型非営利組織における事業化推進の施策」を作成し、事業化の道筋へ序次を踏みながら進めておりました。

本年、7月から学園常務理事として理事長を補佐し学園経営をも見るようにどのご指示をいただき、油の切れ掛けた頭のギアを入れ替えながら仕事をさせて頂いております。

私学を取巻く環境の変化は、①少子化(18歳人口激減)、②大学間競争の激化(地方大学から都市大学へ)、③規制緩和と質の保証(教育研究の改善を怠れば質の低下をもたらす)、④自己点検・評価と認証評価(認証評価機関による評価を教育研究の改革に生かし質の向上を図る)、⑤入学定員充足率の低下(平成22年度569大学中217校38.1%が充足率不足)、⑥収支状況の悪化(帰属収支で消費支出を賄えない帰属収支差額比率マイナスの大学法人、平成21年度545校中218校40.0%)等々の問題を抱えております。

酪農学園は、2011年4月から2学群5学類11コースの新しい酪農学園大学が始まります。教育の改革はスタートを切ることとなりましたが、これを補完する、社会連携、キャンパス環境、組織運営、国際活動、研究、財務等々の諸課題を同時並行的に改革しなければなりません。そのためには、持続的発展を支える財務戦略を早急に整える必要があります。鋭意進めております。

微力ながら、学園改革に邁進致しますので、関東同窓会の皆様には格段のご支援・ご指導を賜りたくお願い申し上げます。

特別寄稿 短期大学部開学60周年、 大学開学50周年に出席して

戸水 雅智(機農高校8期、短大3期)

少子・高齢化時代と言われて久しいが、私学経営は18歳人口の縮少推移により、学生確保は至難の技で、定員割れを来すなど、前途多難の様相である。これまでは文系中心かと理解していたが、最近では医系にもみられるとのことである。

わが母校として例外ではなく、特色ある大学へと変身せざるを得ない状況であり、同窓生といえども、このことを理解しておかなければならない。

そのような環境の中で今回、開学60周年記念式典が行われ、出席する機会を与えられたので、編集者からの依頼もあって、その概要を紹介したい。

はじめに、短大創期・一期生が卒業生を代表する形で式典に招待された、学園・大学の配慮にお礼を申し上げたい。

式典は、黒澤記念講堂で静寂の中で行われたが、総合司会の下、高橋一宗教主任による司式、前奏、讃美歌312番、聖書朗読(ヘブライ人への手紙12章17節、11節)、祈禱、谷山学長による式辞、原田学園長による永眠者追悼祈禱、日本私立大学協会、日本私立短期大学協会、日本キリスト教学校教育同盟の各北海道支部長並びに北海道地区代表による祝辞、頌栄541番、祝禱、後奏、麻田理事長による挨拶で式典は終えた。

続いて、橋本栄治氏による記念講演が行われた。氏は国際協力機構の前身、海外技術協力事業団時代にメキシコ・アルゼンチン・ケニア等に長らく勤務され、2007年10月から理事に就任された方で、演題は「国際協力～昨日～今日～明日」であった。講演で、自分の心を引きつけてくれた言葉「自分のやりたいことに命をかける。高い目標を自らに課せ。必ず結果を出せ。他者に感謝の気持ちを忘れるな。プロになるには10,000時間かけて努力せよ。」であった。

酪農学園の教育指針は、創始者黒澤西蔵翁の哲学、神を愛し、人を愛し、土を愛する「健土健民」のいわゆる三愛主義は、キリストの教えに根差した教理であり、賀川豊彦先生作詞・作曲の酪農賛歌とともに、永久に引き継がれて行くものと期待している。

キャンパスは、あらゆる面で整備・充実され、戦後、昭和20年代に育った私には、余りにも恵まれた環境に、学生はもとより教育に携わる諸兄も、学び・教えの原点を一層自覚し、常に新たな発想で自己研鑽に勤めて欲しい思いと、結果として、真に期待される社会人を送りだしてほしいと願い、学園を後にした。

祝賀会は、札幌ガーデンパレスで行われた。式典といい、祝賀会も60周年、50周年に相応しい催しであったことを記録し、概要報告にさせて頂く。諸兄のご壮健を祝し、一層のご活躍を祈ります。

(関東同窓会 顧問)

評議員就任にあたって 建学の精神を礎に、恩返し

城近 泰(酪農7期)



学校法人酪農学園の評議員推薦への打診は、まさに寝耳に水そのものでした。関東同窓会の南雲会長から評議員に推薦するつもりなので同意してもらいたいと、その言葉の響きの中に無を言わせぬ強靱さを感じました。

南雲会長には恩義もあり、また私を育ててくれた大学に恩返しをするチャンスを与えられているのだとの思いもあり、引き受けることにいたしました。

第1回目の評議員会は7月1日に開催されました。会議の始まる前、学園キャンパスを散策しました。私が入学した昭和40年当時を偲ばせるものは、黒澤西蔵学長像等ほんの僅かしかありませんでした。まさに我が身の変化この衰え、おべなるかなとの感慨が髣髴するのを禁じえませんでした。

いままで2回評議員会に出席しました。学園の経営を担っているトップの理事長ともお話しする機会もありました。会議の席上理事長は、自らの理念を情熱を持って語り共感を求めるその姿勢に、私は敬意の念を抱きました。さらに、「三愛主義に基づく健土健民戦略本部」なる組織を創り取り組んでいる事は、しなやかで真っ当な学園改革への道を進んでいると私には思えます。

まず第一に、この組織の名称が良い。「三愛主義に基づく健土健民戦略本部」そのものズバリ。まさに

名は体をあらわす好事例だと思われます。

私はかつて田中正造に興味を持ち、色々調べた事がありました。その著書の中に好青年黒澤酉蔵の名を見つけ、体の芯が熱くなったのを憶えております。田中正造の正義と慈愛の思想は黒澤酉蔵の血液に流れております。それに加えて三愛主義に基づく健土健民思想、これこそが我が学園の貴重な財産です。学生数減少により学園経営の困難さが増しているこの現状を真直ぐ見つめ、いかに改善すべきかを貴重な財産である「三愛主義に基づく健土健民思想」をベースとして、微力ながらお手伝いしたいというのが評議員就任に当たって思いであります。

(関東同窓会・埼玉県支部理事)

東京事務所長就任に当たり 学園発展のお手伝いを

高澤 靖(農経6期)

7月より前任の須田東京事務所長の後任を受け新たに就任致しました。あまた適任の方がいらっしゃる中、先輩のお薦めもあり微力ながら勤めさせていただくことと成りました。



前職は食品メーカーで肥料・飼料の販売を行い、多くの農家の方酪農家様とお付き合いさせていただきました。この間の40年間は、日本の農業、酪農にとっては激動の40年であったと思われます。

昭和40年代半ば戦後の主要食糧の不足も解消し米の生産調整が始まり、食生活の変化から畜肉・牛乳乳製品の需要が高まり、乳用牛・肉用牛の飼養頭数は増え続けます。そして牛肉の自由化等により大量の輸入農産物が入って来、今輸入農産物の攻勢の前に食料自給率は40%を下回る状況になってきました。

平成18年秋から始まったとうもろこしを始めとする穀物価格の高騰は、その後の畜産経営に多大な影響を与え、数多くの仲間を廃業の危機へと追い詰めました。しかしこの事により多くの人々が食糧や飼料(自給)の大切さを学んだに違いありません。食糧自給率の向上に欠かせない食料・農業・農村の維持にとって酪農の果たす役割は大変

酪農学園関東同窓会 役員名簿

(任期 平成20年4月～23年3月)

会 長	南雲 良三	短 大8期	(埼玉県支部相談役)
副会長	岡田 勉	酪農学科2期	(千葉県支部顧問)
	五十嵐建夫	農経学科3期	(東京都支部副支部長)
	後藤 久雄	機農農経1期	(埼玉県支部長)
	斎藤 達夫	酪農学科4期	(栃木県支部事務局長)
	北村 直人	獣医学科4期	(東京都支部理事)
事務局長	中島 剛	酪農学科3期	(東京都支部長)
事務局次長	渡会福次郎	酪農学科3期	(埼玉県支部事務局長)
会 計	平岡 征雄	農経学科3期	(神奈川県支部長)
理 事	野田 修平	短 大6期	(東京都支部顧問)
	益子 勲	酪農学科1期	(栃木県支部長)
	三田 孝 幸	獣医学科6期	(群馬県支部長)
	平島 勝教	獣医学科7期	(山梨県支部長)
	石月 晋	酪農学科1期	(新潟県支部長)
	増田 澄夫	酪農学科5期	(千葉県支部長)
	小松 泰史	獣医学科14期	(白樺会の代表)
	平山 久	短 大6期	(栃木県支部副支部長)
	小浦 隆文	酪農学科13期	(千葉県支部理事)
	西井 義昭	短 大13期	(東京都支部監事)
	安達 宗之介	酪農学科3期	(神奈川県支部副支部長)
	田中 道明	酪農学科17期	(神奈川県支部副支部長)
	大津 初司	短 大16期	(群馬県支部副支部長)
	上野 達	短 大10期	(茨城県支部副支部長)
	古橋 治巳	獣医学科4期	(茨城県支部事務局長)
	水谷 淳	酪農学科4期	(埼玉県支部副支部長)
	斎藤 洋	農経学科5期	(神奈川県支部事務局長)
	渡辺 仁	酪農学科21期	(山梨県支部事務局長)
	須田 利明	機農農経1期	(後援会常務理事)
	高澤 靖	農経学科6期	(千葉県支部)
	佐々木六朗	短 大11期	(あるま・めーと』編集長・埼玉県支部監事)
	志村 智子	短 大33期	(『あるま・めーと』編集)
	野島加代子	三愛女子7期	(埼玉県支部副支部長)
	角 真知子	三愛女子9期	(神奈川県支部)
	田中 可 子	三愛女子8期	(東京都支部副支部長)
	福山 二 仁	獣医学科3期	(東京都支部理事)
	城近 泰	酪農学科7期	(埼玉県支部理事)
理事・監事	藤村 翼	酪農学科2期	(神奈川県支部顧問)
	小宮 俱子	獣医学科1期	(埼玉県支部理事)
顧 問	古田 修吾	酪農学園創期	
	八重樫 鐵男	短 大1期	
	草地 道一	短 大1期	
	戸水 雅智	短 大3期	

大きいものと考えます。酪農学園の多くの先達の教えが今生かされなければならないと考えられます。

8月に学園に行ってみりました。卒業以来というわけではありませんが学園内の建物・施設の立派さに驚嘆し、往時を偲ばせるものといえば、背後に広がる原始林、学園内の並木、懐かしい旧牛舎や教室でした。久しぶりの学園でしたが、あたたかくホッとする、昔と変わらない雰囲気を感じさせてくれました。40年間“農”に関わる仕事を行い、酪農学園やOBの方々を始め多くの仲間の助けと励ましでここまで来る事ができました。今後は酪農学園の一職員として学園の発展に微力ながらお手伝いができたらと考えております。今後とも皆様方の一層のご指導ご鞭撻をお願い致し東京事務所長就任のご挨拶に代えさせていただきます。末筆ですがお近くにお越しの節はお気軽に東京事務局へお立ち寄りください。

(関東同窓会理事)

感謝 東京事務所勤務を終えました

須田 利明 (機農農経1期)

小生は、平成22年6月末日をもって、学校法人酪農学園東京事務所勤務を終えました。

東京事務所勤務に当たっては、恩師の先生から依頼のお話があり、4～5年でしたらとお引き受けしました。当時、虎ノ門ビルにありました東京事務所、菊池常務理事(故人)、澤田事務局長、天田所長(故人)より事務所管理についての引継ぎを受けて以来9年間の長きにわたり、大変お世話になりました。この間、充実した日々を過ごすことができ、多くの方々との出会いがあり、多大なるご支援・ご協力・ご指導を賜りましたことに対し、心より厚くお礼申し上げます。

現在、西新橋の正直屋ビルに事務所がありますが、平成16年12月に虎ノ門ビルから越してきました。土日の高校生対象の入試・入学相談会が開催できるビルとのことから、今年のように暑い夏でありました。8～9月にかけて、新橋、虎ノ門地区界限を連日猛暑のなか、汗だくで物色して歩き、最終的には当時の高橋副理事長と数ヶ所下見して現在の事務所に決めることとなりました。

また、個人的にも親交のありました奥野誠関東同

窓会長のご逝去であります。平成17年山梨県支部設立と栃木県での全国畜産共進会開催時の関東同窓会長として、大同窓会の開催などに尽力されておられた最中に、体調を崩され所期の目的達成を見届けることなく、昇天されましたことはまことに残念でなりません。小生、在職中には数多くのいろいろなことがありましたが、紙面の都合ですべてを記すことができず残念です。

なお、私は財団法人酪農学園後援会常務理事として引き続き、酪農学園への教育事業を支援する業務に携わっていくこととなりますので、同窓生皆様方にはぜひ後援会維持会員としてご支援ご協力をたまわりますようお願い申し上げます。今日までのご厚誼に対し心より感謝申し上げます。

(関東同窓会・東京都支部理事)

山梨県支部長に就任して 酪農学園に望むもの

平島 勝教 (獣医7期)



私は、平成22年5月16日に開催された山梨県支部の総会で支部長に選任された平島勝教と申します。どうぞよろしくお願ひします。現在、山梨県酪農試験場に勤務しておりますが、あと1年6ヵ月あまりで退職の年齢になっており、あっという間の県庁生活に複雑な気持ちでいる今日この頃です。

さて、前会長の高橋遼一様には、山梨県支部の発起人会や設立準備会を経て、平成18年5月に山梨県支部を設立し、支部長として並々ならぬ努力を重ねられ、ここまでにしていただきました。本当にお疲れさまでした。今後も豊かな経験を生かして支部のため酪農学園同窓会連合会のために、ご尽力をよろしくお願ひします。

山梨県支部は関東同窓会の中でも小人数ですが、一致協力して活動を進めております。総会時の皆さんの意見として、あまり大きな目標を掲げず、支部としてできることから始め、関東同窓会、全国の連合会へ協力していくこととしました。

また、酪農学園に望みたいことは、黒澤酉蔵先生の提唱される健土健民や三愛精神の思想と合致する「食」の安全・安心や環境保全型農業・循環型農業が求められています。これらの思想の基に農業の発展

に寄与していただきたい。

獣医は、私たちの時代(37年前)は、女性が1割、産業動物部門への就職が7~8割いました。牛や馬を中心に大動物に力点を置いた教育をしていたと思います。最近では、どの大学も小動物(伴侶動物)部門を充実して、さらに、テレビ等で獣医さんを取り上げたドラマなどの影響も加わり、女性の占める割合やペットの動物病院に就職あるいは開業する人が多数を占めるようになってきています。

そんな中で酪農学園大学は広大な敷地の中に大きな牧場があり、真に産業動物部門を充実あるいは力点を置いた教育ができる環境にあります。他の大学にない特徴であると思います。さらに、野生動物保護の仕事についても大いに必要とされている分野ではないでしょうか。今後もこれらの分野の充実をよろしく願います。最後に、酪農学園のますますの発展と関東同窓会の発展をご祈念申し上げ挨拶とさせていただきます。

東京支部長に就任して

中島 剛 (酪農3期)



このたび東京支部長を指名されました中島です。初め支部長の人選は、なり手が全て辞退する危機状態でした。確かに先日の役員会の話の中でも、どなたかが話されましたが、役員にな

れば経費は、特に交通費はすべて個人負担ですので、行動することは、大変であることは理解できると思います。そういう中で酪農学園の同窓会が昨年35周年記念大会を終えることが出来たことは、南雲会長はじめ歴代の諸先輩の地道な努力によって築きあげられた賜物と感じております。

その考えを少しでも心の中で感じながら、引き受けざるを得なくなったのが今の心境です。

さて、話は変わりますが、昨年以來酪農学園の改

株式会社ゼンテック販売

酪農13期

代表取締役
社長

川上 幸二

〒140-0001東京都品川区北品川1-8-11
ダヴィンチ品川II 8F
TEL. 03-5783-7401(代表)
FAX. 03-5783-7410

酪農1期

酪農学園同窓会連合会山梨県支部長
昼間のうどん屋<定休日 水・木>
水墨・墨彩画教室

墨游庵 高橋 僚一

〒408-0036山梨県北杜市長坂町中丸2, 105-1
Tel. 0551-32-3076

獣医師

佐藤 至

ITARU SATO

アミーペットクリニック

〒164-0002東京都中野区上高田2-54-8
TEL. 03-3389-7860 FAX. 03-3389-7859

獣医19期

ケペル動物病院

院長

獣医師 大橋 透

〒165-0027 東京都中野区野方6-6-2
tel. 03-3338-3554

獣医15期

酪農学園同窓会連合会副会長
酪農学園関東同窓会 会長

南雲 良三

〒350-1165 埼玉県川越市南台3-2-7 301
電話 049-244-0070
携帯 090-2148-3957

短大8期

新ゆりがおか動物病院

獣医14期

獣医師 小松 泰史

〒206-0823 東京都稲城市平尾2-9-6
tel. 042-331-5731 fax. 042-331-8508

革が進まれています、改革大いに結構です。しかしながら、校名変更の話に至ってからは、私の大学時代クラブのメンバーやゼミ仲間から反対の声が上がりました。校名変更は、50年・60年間親しんできたのですからなかなか簡単にいかないでしょう。校名変更問題において、賛成・反対で2分することは、厳に慎まなければなりません。同窓会は、サロンの結構と思っています。今一番大切なことは、同窓会に顔を出して年1回でも学園の話に浸りたいという人の輪・年齢層の輪を作りあげることではないかと思っています。そのために少しでも努力していきたいと思っています。

神奈川県支部長就任にあたり

田中 道明 (酪農 17期)



このたび第10回神奈川県支部総会におきまして、平岡さんの後任として支部長に就任いたしました「田中道明」です。紙面をお借りしてご挨拶申し上げます。

前平岡支部長は幅広いお付き合いで神奈川支部に留まらず関東同窓会の拡大にもご尽力いただきましたが、今般支部長辞退のお申出があり我々理事としても強く慰留しましたが、体調を崩されているとのことでしたので、やむなく了承した次第です。この場を借りて、一日も早く復調されることをご祈念したいと思います。私自身が支部長という大役をお受けするにあたり正直躊躇いたしました。ここは前支部長の心意気を引き継ぐことが肝要と判断し就任することといたしました。皆さんよろしく願います。

私は大学酪農学科17期卒業(1979年度)で、研究室は家畜繁殖学研究室でした。当時、勉強より遊びに夢中(今も変わっていませんが…)でしたので平尾先生(前学園理事長)にはかなりのご迷惑をお掛けし、なんとか卒論を書き上げたことはまさに先生のお陰です。この場を借り、改めて深謝したいと思います。

また、生まれも育ちも東京の私が神奈川県支部に関係するのは、これも平尾先生の紹介で、本社が平

塚市にある乳業会社に就職したことです。今年で勤めて丁度30年になりますが、いろいろ転勤ののち13年前に本社に戻ってきたことが神奈川県支部との関わりの始まりでした。

神奈川県は卒業生を700数十名も有している道外では有数のエリアでもあり、新執行部の皆さんの協力を得ながら、会員の皆さんが喜んでいただける支部を目指し、高校・短大・大学・学部・学科の垣根を越えた、こだわりの無い支部として運営していきたいと思っています。

会員各位のご理解・ご協力を賜わりたく改めてお願い申し上げます、就任の挨拶とさせていただきます。

若い同窓生の意見を問う

「交流深めて」同窓会の発展を

新潟県支部 諸橋 三年(酪農 24期)

私は昭和62年度に酪農学部・酪農学科を卒業し、現在、新潟県内の農業高校に勤務しています。私は四十歳に入るまで大学の同窓会活動については正直なところ「面倒なもの」と距離をおいていました。しかし、その一方で他大学の同窓会が活発に活動し、多くの交流を図っているのを横目で見て、羨ましいという思いもありました。

そんな中、転勤により酪農学科一期生の石月先生(現新潟県支部長)と職場を共にすることになりました。その頃石月先生は、新潟県内での同窓会活動の発起を考慮しておられ、多くの方々に声を掛けておられました。平成18年、石月先生たちの活動が実り、新潟県支部結成に向けた本格的な取り組みが始まったのです。そして、私も石月先生の後ろで少しずつ同窓会活動に関わるようになりました。

新潟県支部も今年7月に第3回の総会を終え、4年目の活動に入っています。これまで、同窓会活動に関わる中で、多くの方々と出会い、交流を深めることができたことが今では私にとっての貴重な財産となっています。四十歳に入るまで同窓会とは「面倒なもの」で「得るものは少ない」と考えていた自分があり、支部の中には「もっと実りある活動を」という声も聞かれます。しかし、同窓会とは、交流を広める場であり、そしてそこから交流を深めていくことが同窓会活動だと考えま

す。私自身もこれまでに、同窓会活動で出会えた方々より職務上のことで助けていただくなどお世話になったことがたくさんあります。そんなことが、同窓会で「得るもの」であり、それを「実りあるもの」にするのは自分自身と考えるようになりました。これからも同窓会活動に関わっていく中で、私の財産が広がり、深まることを楽しみにしているところです。

(新潟県立長岡農業高等学校教諭)

若い同窓生に意見を問う 後継者育成へイメージづくり

吉田 恭寛 (機農酪経17期)

酪農学園(機農高等学校)で学んでから、30年が過ぎようとしています。埼玉県の秩父というところで、牧場の三代目として生を受け、牛と共に成長しました。中学三年で進路を考えたとき、将来は牧場を継ぐだろうと思いました。秩父は山に囲まれた盆地なので、広大な放牧場や草地に恵まれた北海道の酪農には、あこがれのような気持ちを持っていました。酪農を学ぶならば、酪農が盛んな北海道で、専門的に勉強しようと酪農学園へ入学することを決めました。埼玉育ちの私には、少し寒さは厳しく感じられましたが、思ったとおり自由な校風の中で、高い知識を得ることができ、多くの経験をすることができました。

現在は、私と妻、両親の四人で、乳牛60頭(搾

機農酪経1期

彩の国 鶴ヶ島脚折雨乞行事の里
(夏季オリンピック開催の8月第一日曜日)

雨乞行事 委員 後藤 久雄

〒350-2213 埼玉県鶴ヶ島市脚折1484-24
携帯 090-8327-2492
e-mail hgo510@w7.dion.ne.jp

獣医4期

日本獣医生命科学大学客員教授
酪農学園大学特任教授
学校法人酪農学園Executive Senior Adviser
酪農学園大学獣医学科同窓会会長
社団法人 日本獣医師会

顧問 獣医師 北村 直人

衆議院前議員 (昭和61年~平成17年)

〒107-0062 東京都港区南青山一丁目1番1号 新青山ビルディング西館23階
tel.03-3475-1601(代) fax.03-3475-1604

ANIMAL
CARE
HOSPITAL

獣医2期

動物愛護病院

〒184 小金井市緑町4-2-3
tel.042-383-5463
fax.042-384-1134

院長 河野 勝

Kanamachi Animal Clinic
金町 アニマル クリニック

獣医15期

院長 増田 寿子

東京都葛飾区金町2-29-6 KACビル1F
Tel. 03-3609-7517 Fax. 03-3609-3515

富士食品工業株式会社

酪農21期

工場長 渡辺 仁

山梨県山梨市鴨居寺170 TEL.0553-22-2611(代)
FAX.0553-22-4125

太田屋牧場

酪農19期

太田屋 進

〒351-0033
埼玉県朝霞市浜崎390-27
tel&fax 048-456-1852
Email ootayafarm@yahoo.co.jp

KVS CO:LTD今井家畜診療所
児玉家畜ETセンター

獣医5期

代表 今井 賢太郎

〒367-0253 埼玉県本庄市児玉町河内858-1
Tel:0495-78-0241 fax:0495-78-0509

- 和牛体内受精卵の生産・販売(宅配可)
- 牛体内受精卵の出張採卵(北関東のみ)

寄稿

音(2) 北畑光男 (酪農7期)

雨で濁った用水路を
 溯(さかのぼ)ろうとしては
 流れの勢いに押し流される
 それでもまた流れに逆らって
 ついついとすすんでいく
 それは何匹かの仲間と
 行進曲にあわせているようだ
 その音は
 ぼくらには聴きとれない音だ
 実は
 音がでているのかさえわからない
 そんな音だ
 水面に
 つま先だけをつけている
 細長い針の枝
 ある国では
 やせ細り
 アメンボウになった人を見た
 生きているのか
 死んでいるのかさえも分からない

そんな人たちはみんな
 ひとつの音を遊(さかのぼ)るように
 川に向かって
 やってきたのだという
 川にたどりつく人もいれば
 ことされて
 その場に斃(たおれ)れる人もいる
 死んだ人は
 木で焼かれている
 燃える自らの音を聞いているかのよう
 そこに
 星の音を聴いているかのよう
 いのちはひとつの音をめざしてきたのだ
 還ろうとしているのだ
 還るために
 死の向こうで鳴る音を
 一心に聴いているのだ
 (日本詩人会理事、埼玉詩人会理事長
 など)
 (埼玉県支部副支部長)

乳牛・育成牛)、肥育牛60頭を飼養しています。平成5年にはログハウスを建設し、アイスクリームの販売を始めました。また、酪農教育ファームや中高大学生、社会人に対して、農業研修の場を提供しています。これらの活動は、消費者との交流や農業後継者育成の一助になればとの思いから取り組んでいるものです。

わが家の後継者は?といえは…中学二年の息子がいますが、まだ未定という状況です。私が牧場を継ぐ決心をした年齢に近づいていますが、どうなることか…「継げ」とは言わず、「継がせてください」と言わせることが目標です。それに向かって、妻と二人三脚はもちろんのこと、両親も含めて四人五脚で日々楽しんで仕事をする心にかけています。辛い、つまらない、やりがいのない仕事には誰も興味を持たないでしょうから。ということで、今は日マイメージ作りに専念しています。結果は乞うご期待!

この30年間を振り返れば、雪印事件にBSE、飼料の高騰、口蹄疫と色々なことがありました。それ

にも負けず、畜産業に携わる多くの卒業生を輩出した、酪農学園のすばらしい伝統が今後も続きますよう祈念しております。(埼玉県支部理事)

牛に魅了されて

府金 利廣 (短大8期)

2009年は丑年でした、40年にわたり牛の置物を収集し自宅の片隅に保存しておりましたが、ちょうどこの年に当地域にギャラリーがオープンし、展示者をさがしており、小生に趣味のステンドグラスを展示してほしいとの申し出がありました。丑年が頭を過り、ならば40数年間収集した牛の置物百態に陽の目をみさせてやろうと思い、丑年の牛百態展、というテーマではどうですかと持ちかけたところ、オーナーも快く承諾され展示に至りました。

牛に関わりをもつきっかけとなったのは、昭和20年小学2年のとき絵画の展覧会があり出展したところ、特選となり、その賞品が琥珀色の瓶詰飲料3本でした。これが今のコーヒー牛乳で当時は食

糧難の時代でもあり、田舎の子供には想像もつかない飲料で、この世にこんなおいしい飲み物があることを知り、親にこれが何で出来ているか尋ねたら、我が家にもいる牛の乳と、コーヒーであることを知り、これが酪農、乳業に関わるスタートになりました。

牛(民芸品)のコレクターとしての魅力は人間との関わりが、食、役、心、と幅広く関わっており、食では(乳牛、肉牛)、役(農耕牛、牛車、闘牛)、心(禅の入門図の十乳図に引用される牛)、材質についても(陶器、石、鉄、木、ガラス、紙、藁、革)、そして用途についても絵画、浮世絵、食器、装飾等に利用されています。

収集した民芸品では中国、東南アジア等が多く、これは同窓の水野直治著、馬耕時代の農作業、に記述されているように、日本では馬耕が主で早い時期に機械化されたが、中国、東南アジアではいまだに牛耕が多用されているため、新、旧の骨董、民芸品が多い。小生自慢の一品は200分の1の水牛がブラウを引き農夫が操縦する精巧な銀製の姿で、



未だに残る牛耕時代の風景である。

牛梁(うしばり)という言葉があるが、今では、まさしく牛は小生の人生の牛梁となっている。

(牛民芸品コレクター)(東京都支部副支部長)

●酪農学園東京事務所が有楽町に移転します●

1月から有楽町の『東京交通会館』11階へ移転します。近くにお出かけの節はぜひお立ち寄りください。

住所: 〒100-0006東京都千代田区有楽町2-10-1

JR山手線有楽町駅、営団地下鉄日比谷線、有楽町線が便利です。電話など詳しくは、「酪農学園だより」をご覧ください。

関東同窓会平成22年度事業報告

(自: 22年4月1日～至: 23年3月31日)

1. 4月19・20日(火) 南雲会長・後藤副会長、同窓会連合会理事会出席へ。連合会の運営改革に関する内容。
2. 4月28日(水)
関東同窓会会計報告の監事監査開催。(藤村・小宮監事)
出席者: 南雲会長、平岡会計、藤村監事、小宮監事、渡会・中島事務局、須田理事。
3. 5月16日(日) 11:00～14:00 KKR甲府ニュー芙蓉山梨県支部総会(役員改選 支部長: 高橋僚一氏から平島勝教氏へ) 出席者: 南雲会長、須田事務所長、渡会埼玉県支部事務局長、中島東京都副支部長。
4. 5月27日～28日(金)
酪農学園後援会評議委員会 出席者: 南雲会長、須田利明理事
酪農学園同窓会連合会理事会(組織変更及び改革)
出席者: 南雲会長、後藤副会長、福山副会長。
5. 6月10日(木) 16時～
東京都支部役員会「福山支部長酪農学園の業務多忙のにつき退任申し出」。支部長の件結論不決。
出席者: 府金副支部長、中島副支部長、五十嵐副支部長、田中、須田理事。
6. 6月13日(日) 10:00～16:00
埼玉県支部総会 環境シンポジウム「生産者が語る酪農のいま・未来の夢」吉田恭寛氏
出席者: 本部: 仙北常務、新谷連合会事務局長、永田後援会常務、川邊入試次長、同窓会: 南雲会長、中島事務局長、石月新潟県支部長、高澤東京事務所長
7. 7月1日(木) 11:30～
東京事務所所長、事務引き継ぎ(須田利明氏から高澤靖へ)
出席者: 南雲会長、中島事務局長。
8. 7月3日(土)
新潟県支部総会 出席者: 南雲会長、後藤埼玉県支部長。
9. 7月16日(金) 16:00～19:00

- 関東同窓会役員会及び東京事務所長(須田氏、高澤氏) 歓送迎会。出席者: (敬称略) 須田、高澤、南雲、岡田、五十嵐、後藤、福山、野田、草地、田中、佐々木、藤村、小宮、府金、戸水、岡本、宗像、田中(可)、中島(19名)
・東京事務所所長が須田氏から高澤氏へ引き継ぎされる。
・関東同窓会役員変更(総会時決定事項)
・組織の経費負担が個人負担になっていることに関しては、支部の裁量判断。今後の課題。
10. 7月24日(土) 12:00～16:00
東京都支部総会・関東同窓会総会合同開催。
来賓4名: 野村 武連会長、谷山弘行学長、永田後援会常務理事、黒畑勝男三愛高校副校長
その他支部: 山本浩光近畿支部長、榎田浩札幌支部
議案は満場一致で承認。東京支部と合同にて開催。
・福山東京支部長は、学園の常務理事に就任したことにより後任として中島剛さんをお願いした、さらに関東の副会長に後任には、北村直人さんを推挙した。
東京事務所長の須田さんが高澤さんへ交代した。
大学改革案は文部省から認可された。
大学50周年・短大60周年の記念行事を9/17に開催する。
永田後援会常務理事より後援会の予算が厳しいを踏まえ寄付の応援依頼があった。
- 9月17日(金) 酪農学園・大学50周年・短大60周年記念行事式典開催。
- 9月18日(土)・19日(日) 埼玉県支部家族キャンプ開催。
- 8月23日(木)(祝日) 13:00～17:30
白樺会セミナー: 講師: 加藤清雄先生、中出哲也先生。
出席: 中島関東事務所長
- 10月11日(祝日) 12時～16時 神奈川県支部総会
- 10月30日(土) 13時より
酪農学園高等学校関東地区合同同窓会開催。

イタリアンレストランチェーン
世界最大800店

酪農2期

監査役

岡田 勉

株式会社サイゼリヤ
〒342-0008 埼玉県吉川市旭2-5
TEL. 048-991-9611 FAX. 048-991-9637
携帯: 090-7265-6664
E-mail: T.Okada@saizeriya.co.jp

クリーン農業への貢献
株式会社オホーツク大地
有機肥料販売

酪農2期

代表取締役 笹川 和廣
携帯090-3118-8703

本社090-0838北見市西三輪3丁目752-62帯広支店080-0027帯広市西17条南5丁目41-6
TEL (0157) 36-0429・FAX36-0205 TEL (0155) 33-4633・FAX33-4817
E-mail: okhotsk@clean-daichi.jp 営業所及び拠点
http://clean-daichi.jp/ 旭川市・釧路市・恵庭市・豊富町

SHINJUKU VETERINARY CLINIC

新宿動物病院

院長 高橋 恒彦

獣医18期

本院: 東京都新宿区新宿7丁目11番5号けやきハウス2F
Tel 03-5272-1323(代) Fax 03-5272-1878
豊島分院: 豊島区南長崎2丁目21番9号オーシャンナイン
Tel 03-5982-1377(代) Fax 03-5982-1366

食品の衛生・安全・安心を供給する

理工協産株式会社

酪農13期

取締役エクリン営業部長 小浦 隆文

〒104-0028
東京都中央区八重洲2-8-1 日東紡ビル
tel 03-3281-8821 fax 03-3281-8215
URL http://www.ricohkyosan.co.jp

酪農学園同窓会栃木県支部

酪農1期

支部長 益子 勲

〒321-0135 宇都宮市五代三丁目5-43
tel. 028-653-9613

酪農学園同窓会栃木県支部

獣医3期

副支部長 荒井 徹

〒329-2707 栃木県那須塩原市高柳2-106
tel. 0287-37-1289

酪農学園同窓会栃木県支部

農経13期

副支部長 後藤 栄一

〒329-2732 那須塩原市1区町288
tel. 0287-36-0051

酪農学園同窓会栃木県支部

酪農6期

副支部長 桑島 信也

〒321-0135 栃木県宇都宮市五代3-7-18
tel. 028-653-2625

有限会社ハラダエンジニアリング
一般住宅塗装・内装工事

代表取締役 原田 國明
連続繊維施工士

〒194-0022
東京都町田市森野5-3-32
tel&fax 042-727-2924
(携帯)090-7173-9792

機農・農経6期

酪農学園同窓会栃木県支部

酪農4期

事務局長 齊藤 達夫

〒321-0404 栃木県宇都宮市芦沼町2762
tel. 028-674-2119